

【直撃インタビュー！～「おにぎりアクション」の発起人 大宮千絵さん～】

先日、我々「米の消費拡大・広報チーム」で参加した「おにぎりアクション」。

このたび、一大ムーブメントを巻き起こしているこの活動の立役者 NPO 法人「TABLE FOR TWO International」の CMO(チーフ・マーケティング・オフィサー)大宮千絵さんに、「おにぎりアクション」が生まれたきっかけなど、これまでの歩みについてインタビューさせていただきました！

(TABLE FOR TWO International について→

<https://jp.tablefor2.org/>)



大宮 千絵さん
写真提供: TABLE FOR TWO

「おにぎりアクション」とは、おにぎりの写真とハッシュタグ「#OnigiriAction」を付けて SNS に投稿すると、協賛企業が給食費としてアジア・アフリカの子どもたちに 100 円(給食5食分)を寄付するもの。2015 年からスタートし今年で5回目であり、2018 年までに約 300 万食もの給食が現地に届けられています。

(おにぎりアクションについて→<https://onigiri-action.com/>)

(プロモーション動画→<https://youtu.be/Mg6djs4KRRg>)

それでは、インタビューをどうぞ。

「おにぎりアクション」が生まれたきっかけは、1枚の写真

ーはじめに、取組の中心アイテムとして「おにぎり」を選んだのはどうしてですか？

(大宮さん)

多くの方に参加していただくためには、「生活に身近で参加しやすいアイテムであること」、「シンプルに取り組めること」が大切だと思い、何か良いものはないか日々探していたところ、ふと目に止まった1枚の写真からヒントを得ました。

それは、2015 年のミラノ万博に合わせて開催された日本食イベントでのワンシーン。イタリアの若い女性2人がおにぎりを持って、笑っている写真でした。

この写真を見たときに、自分自身も思わず笑顔がこぼれ、「おにぎりは日本人にとって温かい気持ちになれる特別なものなんだ」と心を動かされました。

おにぎりには、きっと皆さんの中にも心温まるような思い出があること、誰もが手にしやすいものなので、アイテムとしてピッタリだと思ったことがきっかけです。



ミラノ万博時のイベントでの実際の写真
写真提供:Peace Kitchen

ーこれまで取組を展開する中で意識してきたことはありますか？

(大宮さん)

この取組はアフリカへの給食寄付という大きな社会貢献に、参加者の皆様が「身近な食を通じて、楽しんで参加できること」を大切にしており、楽しめる要素を日々提供できるように意識しています。具体的には、「おにぎりアクション」のテーマを毎年変えたり、フォトグランプリを開催したりすることで、楽しめるコンテンツを提供し続けられるよう努力しています。

また、この取組は協賛企業からの寄付・協賛で成り立っています。協賛企業に対しては、「企業イメージが良くなった」、「商品を買いたくなった」といった声が届いており、現状では多くの企業から継続した協賛をいただいています。

爆発的な広がりや、うれしい悲鳴も！

ーとはいえ、これは大変だった…という苦労話があれば、教えていただけますか？

(大宮さん)

開始2年目の出来事なのですが、協賛金が開始わずかで尽きてしまう危機に直面したことですね。2年目からは SNS での投稿も対象としたこともあり、開始3日目にして前年累計の2倍以上の参加を得て、寄付すべき額が一挙に増大したのです。

この時、「早々にキャンペーンを終了するか」、「追加協賛をいただき、最終日まで続けるか」、事務局内でたくさん議論しました。可能な限り後者にできるよう、協賛企業への追加のお願いや、クラウドファンディングの実施によって、なんとか最終日を迎えることができました。

ー最近、参加される方々の動きに特徴や変化はありますか？

(大宮さん)

SNSでの投稿開始時からこれまで、インスタグラマーの皆さんがおうちでの食卓やお弁当で参加してくださって広がってきました。ここ最近では、特に中高生の間で一気に広がっていますね。学校でSDGsについて学んだ後、自分でも直接行動を起こせるものとして取り組んでくれています。

「自分が食べるおにぎりで、同年代の満足に食べられない子の食事につなげたい」
そうした中高生の思いをこれからも現地に届けていきたいです。

あとは、国外からの投稿が増えてきています。どうやら外国に駐在・留学している日本の方が、外国の方と一緒におにぎりを作って、参加して、食べるといったムーブメントが起きているようです。こうして思いやりの輪が広がっていくことに嬉しく思っています。

給食の力で子どもたちの出席率がアップ！

ー取組の成果についてはどのように見えていますか？

(大宮さん)

アフリカの子どもたちの教育の機会に実際につながっています。

アフリカでは子どもも家族を支える働き手となっており、小学校の出席率は50%ぐらいなんです。「おにぎりアクション」により、学校で給食が食べられるようになり、子どもを通わせてくれる親が増え、今では100%近い出席率となった地域もあります。

教育を受けられることで、将来の問題解決にもつながるので、長期的な面でも支援できていると考えています。

あとは、日本の家庭内での食育の機会につながっているんです。

親子で取組に参加し、親から子に「世界にはごはんを食べられない子もいるんだよ。だから残さず食べようね」と、体験を通じて食の大切さを伝えられる機会になった、との声もいただいています。

ー今後の抱負をお聞かせください！

(大宮さん)

SNSを使った企画は、流行り・廃りが顕著に見られますが、「おにぎりアクション」は開始から連続して投稿数が増えているなど、多くの方から好評をいただいています。

来年の2020年は、オリンピック・パラリンピックイヤーでもあるので、東京で活躍が期待されるアスリートの方にも参加していただき、この取組がさらに広がって、世界中の子どもたちがハッピーになれれば嬉しいです。



写真提供：TABLE FOR TWO

つくろう。食べよう。



親から子へ、おばあちゃんから孫へ、大切な誰かのために愛を込めてにぎる「おにぎり」。その「誰かのため」の気持ちに、世界の子どもたちへの想いも込めて。あなたがおにぎりを食べると、アフリカ・アジアの子どもたちにも温かい給食が届く。



onigiri-action.com



おにぎりいただきます
& 写真撮影



写真をサイトに投稿
または #OnigiriAction を付けて
SNS で投稿

THANK YOU!



TABLE FOR TWO を通じて
アフリカ・アジアの
子どもたちに給食が届く

おにぎりで世界を変える 10.16世界食料デー記念

おにぎりアクション



2019.10.7 MON - 11.20 WED

 TABLE FOR TWO